

平成30年度

事業報告

自 平成30年 4月 1日

至 平成31年 3月31日

社会福祉法人 秩父市社会福祉事業団

総務課 事業報告

事業の概要

事業計画	主な事業の内容	主な事業の実績
事業の発展、充実、拡大に努めます。	秩父市より、ふあいん・ユニー、星の子教室の事業者選定を受け、多機能型福祉施設整備計画に基づき、用地取得や建設に関わる事務手続き等の準備を進めます。	(仮称)多機能型福祉施設建設について、指名型プロポーザル方式により設計業者選定に関わる事務手続きを行いました。その後、事業団プロジェクトチームと設計業者で協議を重ね、基本設計図を作成しました。軽微な修正や変更があった場合には、設計者と密に連絡を図り、打ち合わせを行いました。
	放課後等デイサービスゆくるの運営状況とともに児童福祉に関わる動向を見据え、多機能型福祉施設の健全な経営ができるよう研究します。	また、施設整備をスムーズに進められるよう、尾田蒔地区の各町会長、下寺尾住民、星の子教室保護者、ふあいんユニー利用者家族への説明会です承を得て、7月に埼玉県へ施設整備費補助金の申請を行いました。
	防災マニュアルに基づき、災害時の備えを行い、必要な業務が継続できるよう危機管理体制の向上を図ります。また、防犯体制を確立し、利用者、職員の安全を守れるよう整備します。	事業用地については、7月に農用地の除外決定の通知があり、9月に農地転用許可申請を行いました。土地取得に関しては、売主、不動産業者、司法書士、監事を交え、12月に売買契約を締結することができました。
	事業団の存在をより多くの方に知っていただくよう、広報誌、ホームページやパンフレットを利用して様々な情報を発信します。	国庫補助の申請については、適正に書類を作成し、スケジュール通り2月に提出しました。3月には、市の関係者へ進捗状況の報告を行い、情報共有を図りました。
法人全体で地域に向けた活動を行い、地域貢献に継続して努めます。	福祉の専門集団として、今までに築き上げた専門的知識を地域社会に向けて積極的に発信していきます。	毎月、公益的取組みに関する会議を開催し、実施状況の確認、対象地域の拡大などの検討を行いました。
	地域活動への参加や交流を通し、施設の活用や福祉避難所としての機能を発揮できるよう、地元町内会や民生委員、近隣企業・施設等と協力を図ります。	「あんきなくらしサポート事業」は、中津川地区、浦山地区に合計13回訪問し、交流活動や介護予防相談を行いました。 「ちよっくらおでかけサポート事業(外出支援)」は、地域の要望を聞き取りながら、日帰り山梨旅行、ほのぼのマイタウン見学会を行いました。また、浦山地区の方々が中津川地区へ出かけ地域間の交流を図りました。 「ほのぼのネット事業(見守り支援)」は、地元の中蒔田地域で登録していただいた方を月1回程度訪問し、体調確認や不安の聞き取りを行いました。 また、彩の国安心セーフティーネット事業、研修事業については、市町村や社会福祉協議会からの依頼に対して積極的に協力しました。

<p>事務手続きを適正に行い、透明性のある経営を行います。</p>	<p>社会福祉法の改正に伴う各種事務手続きをスケジュール通りに遂行し、理事会、評議員会の円滑な運営につながるよう努めます。</p>	<p>社会福祉法の改正に伴う各種事務手続きを行い、円滑に、理事会、評議員会、評議員選任・解任委員会を開催しました。また、社会福祉法人現況報告書等をホームページで公開し、事業運営の透明性を図りました。</p>
	<p>法人全体の経費削減に向けて、定期的に予算の執行状況の確認、報告を行います。</p>	<p>助成金に関しては、見守り機能付きの介護ベッドを導入し、介護ロボット普及促進事業への補助金申請を行いました。</p>
	<p>適切な会計処理を行い、事業運営の透明性の向上を図ります。</p>	<p>また、キャリアアップ助成金を活用し、契約職員の正職員化、パート職員の時間延長等の処遇改善を図り、助成金申請を行いました。</p>
	<p>各種助成金の活用を積極的に行い、事業運営の安定に努めます。</p>	
<p>職員の定着を図り、人材育成に努めます。</p>	<p>生活援助の担い手の拡大を図れるよう、ハローワーク、各種専門学校等の関係機関とこれまで以上に密な連携を図ります。また、新規事業に伴う保育士等の人材確保に努めます。</p>	<p>大学、専門学校、高等学校への訪問、合同面接会への参加、ハローワークとの情報交換を密接に行い、求人活動を実施しました。7月、9月、10月、2月と計4回の職員採用試験を実施し、介護職9名、看護師2名が正職員として採用となり、人材の確保・定着に取り組むことができました。また、星の子教室の現職員である保育士等と面談を行い、今後の勤務についての聞き取り調査を行いました。</p>
	<p>ストレスチェックを運用し、心身の状態を把握しながらメンタルヘルスの不調を未然に防止する体制作りを進めます。</p>	
	<p>個々の職員の専門性を向上させるため、職員の資格取得に対する支援を行います。</p>	
<p>建物及び設備等の適正な管理、見直しを行います。</p>	<p>秩父市の「複数施設一括省CO2化改修事業」の対象施設として、空調設備、照明設備の改修に協力していきます。</p>	<p>「複数施設一括省CO2化改修事業」については、担当する秩父市環境立市推進課、関係事業者と入所者の生活を最優先に考えながら協議、検討を重ねました。改修工事プロジェクト会議において、改修工事に関する情報共有や課題検討を行い、空調、照明設備ともにほぼ予定通りに改修することができました。また、ナースコールの不具合に対し、見積もりを徴取し、秩父市へ修繕に関する相談を行いました。</p>
	<p>建物及び設備に関して、修繕及び機器更新を計画的に行います。また、施設に関する大規模改修工事については、補助金や積立金の活用を検討します。</p>	

事業の概要

事業計画	主な事業の内容	主な事業の実績
一人ひとり誰もが生きがいを感じ、笑顔あふれる暮らしの場を利用者と共に創造します。	利用者自治会(なかよし会)において、生活の希望や生活課題への意見を受け止め、利用者の思いに添った暮らしを実現します。	なかよし会の開催等を通じ、利用者一人ひとりの希望を受け止め、外出行事や苑でのレクリエーション活動に取り組みました。
	行事、レクリエーションや趣味活動等に取り組み、生きがいをづくりを行います。	小鹿野春祭り、あめ薬師、川瀬祭り、中蒔田納涼祭、秩父神社茅の輪くぐり、吉田よいこ祭り、小鹿野鉄砲祭り、吉田虚空蔵様など地域行事に積極的に参加しました。また、季節感を感じることができるよう、羊山芝桜見学、吉田の花桃・カイドウ見学、両神ダリア見学、骨波田の藤見学、いちご狩り、新潟大鳳見学、芦ヶ久保氷柱見学、みかん狩りなどの行事を実施しました。
	利用者一人ひとりの特技を活かしての活動や、利用者の支え合い等を支援し、主体的な暮らしの場を実現します。	
個人史や人と人との繋がりを尊び、ご家族や地域との関係を大切にすることで、地域社会の一員としての暮らしを実現します。	広報誌の発行、フェイスブックの活用、日々の暮らしの写真の掲示等により、施設での暮らしを発信することで、ご家族や地域の方にとって施設が身近なものとなるよう取り組みます。	施設を退所された方のご家族を施設にお招きし、お別れの会を行いました。職員とご家族とで、施設での生活の様子や若いころの様子、思い出などを語り、介護者としての労をねぎらうとともに、退所された方と出会えた喜びを共有できるよう取り組みました。
	ほのぼのの祭りや食事会など、様々な行事にご家族に参加いただき、家族関係を深めると共に、ご家族の協力のもと施設生活の充実に取り組みます。	
	利用者、またその家族の希望に寄り添い、外出・外泊の支援や地域行事への参加等を行うことで、新たな出会いや地域との繋がりが構築できるよう取り組みます。	
生活困難者等への支援において、迅速かつ適切に対応することで施設機能を最大限、地域に還元します。	秩父市をはじめとした行政機関や包括支援センター等との連携を密接に持ち、虐待等の緊急ケースに迅速に対応します。	行政機関やケアマネージャーから、緊急的に在宅生活が困難となったケースを複数受け入れました。また、徘徊等のある重度認知症者や褥瘡処置等の医療ニーズの高い利用者も受け入れました。
	重度認知症者や医療ニーズのあるケースについても積極的に受け入れます。	特養入所利用率93.2%、短期入所利用率95.0%でした。
	特養入所利用率97%以上、短期入所利用率95%以上を実現します。	
専門機関、専門職としての誇りを持ち、組織として研鑽を積み、謙虚に実践の向上に努めます。	職員間の意見交換を活発に行うことで、一人ひとりの思いを実践の中に活かし、各人のやりがいを高揚し、組織として研鑽を深めます。	誕生日会や食に関する行事を実施し、全国ご当地グルメの提供、デザートバイキング、柏・よもぎ餅作り、うどん作り、井ぶりや麺類のセレクト食、手作り餃子、焼き芋、手作りクレープを実施し食べることの喜びを感じてもらいました。
	認知症の専門研修、人権擁護、事故防止、感染症に関する研修等を行うことで、知識の共有と深化をはかり、職員の資質向上に取り組みます。また、資格取得に向けての気運を醸成し支援します。	褥瘡防止研修、リスクマネジメント研修、感染症研修、虐待防止研修を行い、専門的知識を深めました。そして、委員会や係の活動を通じて、職員一人ひとりが責任とやりがいを持って業務と処遇改善に取り組みました。
	嘱託医との連携を適切に行います。また、日々の健康観察を行い、その情報を共有しケアを実践することで健康増進に努めます。	嘱託医や協力病院と密接に連携し、利用者の健康維持に努めました。
	定期的な歯科往診と歯科衛生士の指導・助言に基づき、口腔ケアに取り組むことで健康づくりにつなげます。	

<p>苑内美化やさわやかな空間づくりに取り組み、心地よく生活できる環境を実現します。また、個別の身体状況等に応じ生活環境を整えることで、安全な暮らしの場を実現します。</p>	<p>定期的には大掃除を位置づけ、苑内の美化に取り組みました。また、空気加湿清浄機の導入やこまめな換気に取り組むなど、生活環境の改善に努めました。様々な取り組みを通して職員の生活環境整備に関する意識を啓発しました。</p>
<p>食べることの喜びが感じられるよう、ゆったりとした食事場面をつくります。また、一人ひとりの嗜好や食事摂取状況にあった食事提供を行い、食生活の充実に努めます。</p>	
<p>グループでのゆったりとした入浴場面の提供や個別性を重視した快適な排泄環境を整えることで、安楽な生活が送れるよう取り組みます。</p>	
<p>他職種連携のもと個別機能訓練計画に基づいたリハビリを実践することで、身体機能を維持し、安全に可能な限り自立した生活が送れるよう取り組みます。</p>	

秩父市立養護老人ホーム長寿荘 事業報告

事業の概要

事業計画	主な事業の内容	主な事業の実績
<p>利用者の自主的な生活が営めるよう自己決定を尊重し、自立支援に向けた取り組みを行います。また、ご家族や地域との繋がりを大切に、地域社会の一員としての暮らしを実現します。</p>	<p>利用者の思いやそのおかれた状況を鑑みて、明るく家庭的な雰囲気の施設生活を通して、その人らしい生活の実現に努めます。</p> <p>また、生活背景や環境等に照らして、自宅で日常生活が営むことができるか配慮し、本人、行政と一緒に検討します。</p>	<p>自立支援に向けた取り組みとして、入所者と個別面談を行い、本人が望んでいること、できることを再確認し、個別支援計画に活かしました。</p> <p>社協を利用したボランティア活動(傾聴)を通して、その人らしい社会参加を促しました。</p> <p>利用者個人の家族支援についても関係機関に積極的に協力し、利用者・家族の望む支援を行いました。</p> <p>また、個人の思いが実現できるよう、小人数でのグループ外出を通して、画一的にならない支援を実施しました。また、山梨県に一泊旅行に出かけ利用者の望む余暇生活を支援しました。</p> <p>施設内作業での役割を担った活動をはじめ、引き続き地域の一員として生きがいを感じられるよう、中蒔田地区の清掃活動、納涼祭、尾田蒔体育祭へ参加しました。</p>
	<p>自治会議の開催を通じ、利用者の声に耳を傾けることで、その声を行事やレクリエーション、趣味活動等に反映します。</p> <p>利用者個々の身体状況に応じ、少人数でのグループ外出や県外への宿泊旅行など、画一的にならない外出支援、社会参加に取り組みます。</p>	
	<p>広報誌の発行や、日頃の生活状況の報告、相談の実施等により、ご家族との繋がりが深まるよう努めます。</p>	
	<p>地元町内の地域活動への参加を維持し、利用者が地域の一員として生きがいを持つよう支援するとともに、地域貢献事業の発展に努めます。</p>	
	<p>利用者の施設内作業を促進し、働くことの喜びと共同生活の喜びを感じることで、生きがいを感じるよう支援します。</p>	
<p>専門機関・専門職として、研鑽を積み、改善改革に取り組む、質の高いサービスを提供します。</p>	<p>職員間、職種間の情報共有と意見交換により、その人らしさを尊重した支援をチームで実践することで、質の高いケアの実現に努めます。</p>	<p>養護老人ホームでの医療ニーズの高まっている現状に対して、嘱託医を中心に、各専門医療機関や埼玉森林病院、埼玉県立循環器呼吸器病センターなどへの入退院支援を行い、医療が必要になっても安心して生活を送れる環境作りを行いました。</p> <p>委員会活動についてはスケールメリットを活かし、他部署との合同開催により、幅広い委員会活動や各種研修を行うことができました。</p> <p>本人の意向により、在宅時から利用している介護保険サービス(デイケア)を入所後も利用できるよう関係機関と協議し利用継続につなげました。</p> <p>退所支援については身体的、精神的な状況に応じた医療機関、介護保険施設へ繋がるよう、各関係者と密な連携を図ることによりスムーズに移行できるよう支援を行いました。</p> <p>また、家族、行政、医療機関等と検討を重ね、本人の意向を尊重した在宅復帰支援を行いました。その後も安全な暮らしが送れるよう見守り支援を継続しました。</p> <p>障がい者施設からの入所についても関係機関と連携を図り、積極的に受け入れました。</p>
	<p>小さな体調変化をしっかり観察し、嘱託医を中心とした医療機関との連携を深めることで、利用者の皆様がいつまでも元気に過ごせるよう、健康管理に努めます。</p>	
	<p>身体状況の把握、生活環境の整備、事故防止策の分析などに取り組み、安心で安全な生活の場を構築します。</p>	
	<p>要介護者が必要なサービスを利用できるよう関係機関と協力し、住み慣れた施設での生活が維持できるよう支援します。</p>	
	<p>退所後も安心して生活できるよう、身体状況に応じた施設につながるよう関係機関と連携を図ります。</p>	
	<p>高齢者支援に限らず、障害者(精神障害、知的障害)に関する支援方法についても研鑽を積み、多様で幅広いニーズに対する支援ができるよう研修参加や施設見学を積極的に行います。</p>	

全職員で現状課題を把握し、健全な施設運営を図ります。	入所利用率98%を目標とし、安定した運営を図ります。	入所利用率は97%でした。職員全体でコスト意識を持ち、無駄のない物品購入や節電を心掛け、適切な事業運営を行うことが出来ました。秩父市をはじめ、入所措置機関と連携を図り、環境的、経済的に課題のある困難ケースの受け入れを積極的に行うとともに、居宅支援事業所からも、在宅生活困難者を緊急ショートステイとして受け入れ、地域の社会資源として貢献することができました。
	諸経費のコスト削減に努め、適切な事業運営を図ります。	
	秩父市をはじめ、入所措置機関と円滑かつ速やかな連携に努め、経済的および環境的な理由による生活困窮者等に対する社会資源として地域社会に貢献します。	

蒔田デイサービスセンター 事業報告

事業の概要

事業計画	主な事業の内容	主な事業の実績
利用者、家族の方が住み慣れた地域で生活が続けられるよう地域に密着したサービス提供に努めます。	積極的に利用希望を受け入れ、利用率の向上(目標80%)を図り、諸経費等のコスト削減に努めます。	入院やショートステイを利用される方も多く見られる中、目標数値を目指して、短時間や短期間、生活介護等の利用者の受け入れを積極的に行いました。 理学療法士による個別リハビリの特色を活かし、数多くの利用者を受け入れました。 活動内容や利用状況を、フェイスブックを活用し、情報発信を行いました。 生活介護において、同性介助を希望される利用者や体格の大きな利用者の支援について、職員間で検討を重ね対応しました。 必要に応じ利用者の状況報告をし、密な連携を心掛けました。
	より多くの方々に利用して頂けるよう地域のあらゆる資源を活用して、特色のあるサービスの提供に努めます。	
	理学療法士による専門的なりハビリの実施と、充実した看護体制により、医療ニーズの高い方の受け入れを行います。	
	広報誌・ホームページ等で広く活動内容を情報発信します。	
	日常生活支援総合事業、障害福祉サービス利用者の受け入れを積極的に行い、地域に密着したサービス提供を職員全体で取り組みます。	
職員の資質向上と人材育成を行い、質の高い福祉サービスの提供を目指します。	居宅介護支援事業所、地域包括支援センター、医療機関、家族等と情報交換を密に行い連携を図ります。	
	外部・内部研修へ積極的に参加し、それぞれの事業所及び職員が持つ情報や知識を事業所全体で共有して活かしていきます。	毎月、ミーティングを開催し、情報交換や研修を行いました。通所事業者連絡会主催の研修会にも定期的に参加し、資質向上に努めました。 毎朝の申し送りで、利用者の状況や家族の希望など細かな情報を共有して、より良いサービスの提供ができるよう取り組みました。 職員間のメンタルヘルスでは、個別に聞き取りや相談を行い、上司や総務課と連携し、職場環境の改善に努めました。 職員の資格取得に向け、情報提供、事業所主催の勉強会を開催し、スキルアップを図りました。
	毎月のミーティングや毎日の申し送りで、利用者の情報を共有し利用者一人ひとりに寄り添った支援を行います。	
	事業所間相互の協力体制を確立し、各事業所と連携を図り業務の効率化に努めます。	
	安全衛生委員会を通じて安全で快適な職場環境の整備に努めます。 また、職員のモチベーションを低下させないよう、メンタル面のフォローアップを行い、心の健康管理に努めます。	
OJT・OFF-JT、自己啓発等のしやすい体制づくり、資格取得に向けた支援体制、人材の育成に努めます。		
安定したサービス提供に努めます。	制度の動向・方向性を的確に把握し、職員が分かりやすく周知できるよう努めます。	介護保険制度や利用者に必要な情報を職員間で共有し、目標を掲げサービスを提供しました。
	事業所の稼働状況を定期的に分析し、適正な収入が確保出来るよう努めます。	
	職員一人ひとりに至るまで共通の意識と目標が浸透した職場づくりに努めます。	

秩父市ヘルパーステーション 事業報告

事業の概要

事業計画	主な事業の内容	主な事業の実績
在宅での生活を継続できるよう利用者の自立度や障がい特性に合わせたサービスが提供できるよう、職員の資質向上を図ります。	医療・福祉・介護等に関する外部研修への参加、新規職員研修として特養・デイサービスでの実務研修を実施し、職員のスキルアップを図ります。	月1回のミーティング及び内部研修会を開催し、職員の情報共有と資質向上に努めました。内部研修では、ヘルパーとしての課題解決や接遇の向上に向けて、身体介護の実践や特養での身体介護体験等に取り組みました。「虐待防止研修」「手話研修」といった外部研修に参加し知識習得につなげることができました。
	月1回のミーティングを開催し、利用者の情報共有、支援内容の確認、事例検討・職員研修の実施、報告・連絡・相談の場とします。	
	介護福祉士等の国家資格や障がい者支援に関連する資格取得をサポートし、事業団の専門機能を高めます。	
利用者及び利用者家族や地域との連携を深め、地域に根付いた事業所を目指します。	関係機関との情報交換等を行い、連携を強化することで、発生する課題に対し迅速な対応を行います。	関係機関との連携を深めるためにコミュニケーションを密に図り、利用者の課題に対し迅速に対応しました。サービス提供責任者による自宅訪問や各ヘルパーとの情報共有を積極的に行い、利用者の現状把握に努め、適切な支援が提供できるよう働きかけました。
	利用者及び家族に対し支援内容を解りやすく丁寧に説明し、意向や希望を尊重した支援を行います。	
	利用者・家族等へ様々な情報を発信できるよう、自宅訪問の際に適切な情報提供と、必要に応じてケアマネジャーや関係機関の情報提供を行います。	
高齢者及び障がい者の積極的な利用受け入れを行い、安定した事業所の運営を行います。	支援困難・緊急なケースを積極的に受け入れるため、事業所に滞在するヘルパーを配置し迅速な対応を行います。	居宅介護支援事業所、障がい者支援センターや地域包括支援センターと良好な関係を構築し、積極的に新規利用者の受け入れを行いました。月平均130名の利用者にサービス提供を行うことができました。
	訪問者数の増加(目標115名)を図ります。	

秩父市社会福祉事業団居宅介護支援事業所 事業報告

事業の概要

事業計画	主な事業の内容	主な事業の実績
市町村・包括支援センター及び医療機関との連携を全職員で深め、積極的に新規利用者の受入れを行います。また、市町村からの委託業務等も継続的に行います。	困難ケースや緊急ケースの受け入れを積極的に行い、各個人がその人らしい生活が送れるように支援します。	各医療機関や包括支援センターから依頼を受け、支援者数を確実に伸ばすことができました。以前支援していた利用者のご家族からの直接の依頼も多く受けることができ、その結果支援者数も増加し、目標の支援者数に到達することができました。
	年間を通して月225件以上の支援者数を維持します。	
	介護保険委託業務の認定調査を実施します。	
	『介護予防・日常生活支援総合事業』の委託受け入れを積極的に行います。	
	認定審査会への出席を継続して行います。	
専門的な知識を深め、ケースワークの技術を更に高めることで、個人の生活の質が向上できるような支援を行います。主任介護支援専門員の更新研修へ参加し資格要件を維持します。	市町村及び各包括支援センター、医療機関や介護保険事業所との情報交換を行い、更なる連携強化を図ります。	
	地域サービスや新規事業所、インフォーマルサービスの把握を行うことで、ケースワークの質を高めます。	新たに1名が主任介護支援専門員資格を取得し、安定した経営状態が維持できました。また、専門研修にも積極的に参加し、ケアマネジメントにおける個人のスキルアップにも結びました。
	介護支援専門員更新研修及び主任介護支援専門員更新研修、県・市町村・各事業所の主催する研修へ積極的に参加し、専門的知識の向上に努めます。	
	「特定事業所加算Ⅱ」の算定を継続できるよう、算定要件を理解し、体制・支援内容等の維持や変更を行います。	
	計画的な研修計画を介護支援専門員へ実施します。	
他の居宅介護支援事業所との交流を深めケース会議や事例検討会を開催することで、マネジメント力を高めます。		
平成30年度介護保険制度改正の内容を把握し、利用者の抱えるニーズに合わせた支援を行っていきます。	包括支援センター等から依頼された困難ケース等の事例にも積極的に受け入れを行います。	今年度より居宅介護支援事業所の指定管轄が市町村へ移行したことで、連携を図り円滑な事業運営を行うことができました。各市町村主催の勉強会だけではなく、他法人、他事業所主催の研修会にも積極的に参加することで信頼関係を構築しました。
	「運営基準減算」や「特定事業所集中減算」等の適用を受けないよう適正な事業運営を継続します。	
	法改正及び報酬改定を理解し、利用者のニーズに合わせたサービス利用ができるよう支援します。	
	「地域ケア会議」「各包括支援センター主催の研修や勉強会」へ参加します。	

秩父市立上吉田高齢者生活支援ハウス 吉祥苑 事業報告

事業の概要

事業計画	主な事業の内容	主な事業の実績
高齢者生活支援ハウスに求められる役割を自覚し、地域福祉の発展と向上に貢献します。	秩父市および包括支援センター、居宅介護支援事業所など関係機関と連携し、入居等の相談、緊急入居事例等に速やかに対応します。	平成30年度の新規入居者数は4人、退居者は2人で、3月末日時点での入居者数は20人でした。 7月より上吉田東町会の「ポテくまくん健康体操」事業に協力し、実施会場として吉祥苑ロビーを使用し、25名前後の方に毎回参加いただきました。 10月の東町会文化展には、吉祥苑入居者の絵手紙等の創作品を展示していただきました。 10月の地域清掃活動では合角ダム近辺のごみ拾いを実施しました。
	近隣地域に吉祥苑の機能や役割を周知します。地域行事等に積極的に参加し、地域との一体感を高めます。	
	とくし丸等の移動商店での買い物の機会を開放し、地域の方の利便性を向上します。	
職員1人ひとりの介護技術、相談援助技術の向上を図り、質の高い福祉サービスを提供します。	上吉田デイと共同して年間研修計画を策定し、計画的・組織的な職員研修を実施します。	昨年度まで年一回の開催だった日帰り旅行を、上・下半期の2回とし、6月24日に富岡製糸場等群馬方面への旅行を実施しました。10月7日には、偕楽苑と共同して山梨へぶどう狩りへ出かけました。 ひだまり会を2回実施し、新規入居者のご紹介や意見交換を行いました。 デイサービスと共同での特別昼食、特製おやつなどの行事に参加していただきました。 運動器具の留め具の補修など、軽微な補修を要する物品の故障等は職員で行いました。
	物品の購入や施設整備の保守・修繕について適正な管理を行います。職員による日常的な保守点検および修繕を実施します。	
	日帰り旅行、夕涼み会、お花見など、入居者のQOL向上に資する余暇活動を計画・立案し、実施します。入居者のニーズを汲む機会として、ひだまり会(入居者自治会)を定期的実施します。	
「一日でも長く地元地域で暮らしたい」という要望を実現するため、安心・安全な生活を送れるよう支援します。	市民福祉課、包括支援センター、警察署等の関係機関と連携し、入居者の消費活動を守るとともに、防犯意識を高めます。	8月に小鹿野警察署の協力のもと防犯講習を実施し、小鹿野警察署管内における犯罪の実情の説明、交通事故への対策、詐欺電話への対応演習などを行いました。 7月に実施した避難訓練では、地震発生からの火災を想定し、災害時の訓練を合わせて行いました。また、9月2日に行われた上吉田東町会の防災訓練で、調理室を使用した炊き出し訓練を実施しました。 上吉田医院の往診は3月末時点で13人の方が対象となり、定期および随時の往診にご協力いただきました。倉林歯科の往診は延べ4人の方が対象となり、義歯作成や治療、衛生指導を行っていただきました。
	上吉田医院、倉林歯科クリニックによる内科・歯科往診を実施します。早朝・夜間帯の職員不在時の緊急事例に対し、関係者間で連携し迅速に対応します。	
	消防訓練・災害訓練を実施し、非常災害時の対応を強化します。また、防犯訓練を実施し、施設の安全性を高めます。	

秩父市上吉田デイサービスセンター 事業報告

事業の概要

事業計画	主な事業の実績	主な事業の実績
共通の課題認識をもち全職員で施設運営に参画します。	日々の光熱水費の使用状況を把握し、節電・節水に努めます。必要物品について検討し諸経費等のコスト削減を図ります。	今年度の平均利用者数は要介護の利用者も増え、15.2人(84.2%)でした。 地域密着型サービスの要件である、運営推進会議を9月4日と1月17日に開催しました。本年度より、上吉田・石間地区の民生委員の代表者に出席して頂き、計7名の委員で現在の地域の現状について協議することができました。 利用状況の分かる冊子等を作成し、各事業所に積極的にアプローチを行うとともに、フェイスブックを活用した情報発信を随時行いました。
	利用定員を地域密着型通所事業最大の18名とし、新制度の正確な把握と対応に努めます。	
	広報誌やホームページを活用した積極的な広報活動を行います。また、ケアマネージャーへのアプローチを積極的に行い、利用率の向上を図ります。	
支援困難事例や重度の利用者の受け入れを積極的に行い専門職として質の高いサービスを提供します。	コミュニケーション技術、介護技術を習得し、職員一人ひとりのスキルアップを図ります。様々な利用者への支援が的確に行えるよう体制を整えます。	「介護予防・日常生活支援総合事業」対象者や障がい者の積極的な受け入れを行い、今年度は、昨年度を上回る18名の新規利用者の受け入れを行いました。介護支援事業所からの相談以外にも家族からの直接の依頼に対しても柔軟な支援を行いました。
	緊急時の対応、事故防止、認知症についての研修を実施し、職員の資質の向上を図り、利用者に安心、安全なサービスを提供します。	
	月1回、ミーティングを実施し利用者の状況、事業所内での課題を検討し、事業所全体のサービスの質を向上していきます。	
近隣の地域の人の関係を構築していきます。地域に密着したデイサービスを実現します。	地域住民から寄せられる介護相談等に積極的に対応し、地域住民が安心して在宅生活が継続していけるよう支援します。	昨年度の運営推進会議での地域住民からの意向を踏まえ、当施設が地域の避難所の指定を受けていることから、9月2日に上吉田地区の防災訓練を施設駐車場でを行い、調理実習室を使用した炊き出しの訓練も行いました。 また、地域で一人暮らしなど生活に不安のある方の見守り、声かけ支援を継続して行いました。
	近隣の吉田地域や小鹿野方面への外出を実施し、地域との交流、つながりが深められるよう支援します。	
	運営推進会議を通じて地域住民からの意見や要望をくみ上げ、地域とのより良い関係を構築します。	
その人らしさを大切に幸せを感じる事ができるようなデイサービスを全職員で創造します。	全職員でレクリエーション活動を考え作業分担などを協力して行います。	利用者一人ひとりの家族事情や生活スタイルを踏まえて、余暇活動での買い物や季節に応じた地域行事への参加を積極的に行いました。 また、両神のダリア園や道の駅などへ個別による外出行事を行いました。
	利用者の個別ニーズに合わせた外出やレクリエーションを実施することにより個別支援の充実を図ります。	
	ボランティア、慰問の受け入れを積極的に行い地域、世代間の交流を深めていきます。	

秩父市高篠デイサービスセンター 事業報告

事業の概要

事業計画	主な事業の内容	主な事業の実績
利用者一人ひとりが、それぞれの持っている力を活かしながら、住みなれた地域で安心して生活できるよう支援します。	利用者が安心して在宅生活が継続できるよう、地域、医療、介護といった他職種連携による「チームケア」で支援します。	身体状況の変化や家族の都合にあわせ、利用日の変更や送迎時間の調整など柔軟な対応を行いました。 また、利用者が持っている知識や経験をレクリエーションに取り入れ、役割を持って参加できる環境作り、つながりを持っていただきました。
	利用者が持つ豊かな経験と知識、技能を活かせるような環境を整備します。	
	利用者が望む場所での生活を継続していくために、身体状況や家族の変化に対応しながら支援します。	
多様化する利用者ニーズに応えられるよう、福祉サービスの提供体制の充実を図り事業を展開していきます。	困難ケースの積極的な受け入れ、また多様化するニーズにも柔軟な受け入れが出来るよう努めます。	医療ニーズのある方や難病指定の方を受け入れるなど、多様化するニーズに柔軟な受け入れが出来るよう努めました。 また、利用者一人ひとりの希望に添えるよう個別対応を心掛け支援しました。
	利用者一人ひとりに、きめ細かな支援を行えるよう、介護保険などフォーマルなサービスだけでなく、ボランティア等の協力を得ていきます。	
	上質なサービスを安定的に供給するため収入の確保と、できる限りのコスト削減に努めます。	
人材育成に努め、利用者のニーズを把握するとともに、質の高い福祉サービスの提供を目指します。	職員の資質の向上に資するため、年間計画に基づいて、職員対象の研修を積極的に行います。	チームによる質の高い福祉サービスの提供を目指し、年間計画に基づき毎月の研修を行うと共に、新規職員に対し基礎研修を行い資質向上に努めました。
	職員それぞれの立場にあったスキルアップ・モラルアップ・モチベーションアップを図り、チームによる質の高い福祉サービスの提供を目指します。	
	OJT・OFF-JT、自己啓発等の行ないやすい体制づくり、資格取得に向けた支援体制の充実に努めます。	
地域に広く開かれた高齢者福祉施設として、地域行事へ積極的に参加する機会を設け、地域との交流を深めます。	地域特性を活かしつつ、学校や学生ならびに地域ボランティアの受け入れを積極的に行います。	地域に広く開かれた高齢者福祉施設として、地元小学校との交流会を実施し、施設見学や歌の披露、高齢者と触れ合うことができる場面を提供しました。夏休みを利用した学生ボランティアの受け入れも積極的に行いました。 また、ダンスや音楽バンド、歌謡といったボランティアグループの受け入れを行い地域の方々にも参加いただける行事を開催しました。 この様な活動内容を広報誌・ホームページを通し発信しました。
	地域住民から寄せられる介護相談等に積極的に対応し、在宅支援の役割を担います。	
	広報誌・ホームページ等で広く活動内容を情報発信します。	

秩父市重度心身障害者通所施設ふあいん・ユ一 事業報告

事業の概要

事業計画	主な事業の内容	主な事業の実績
利用者、ご家族に安心して利用していただけるよう、質の高いサービスを提供します。	利用者の体調変化には常に細心の注意をはらい、急な変化については随時家族と連絡を取り適切に対応します。	利用者一人ひとりの体調管理を行い、変化がみられた時には随時電話連絡するなどし利用者・家族が安心して利用できるよう努めました。
	快適な室内環境等の整備、提供に努め、施設設備の点検、修繕などを秩父市と連携し、適切に行います。	空調機器等の適切な使用により、快適な環境の提供に努めました。
	定期的に家族懇談会(年2回)を開催し、家族との信頼関係の維持を行います。また、新施設への移行についての理解を深める為、意見交換等を積極的に行います。	家族懇談会を11月、3月の2回開催し、日頃の利用の様子や報告や意見交換等を行いました。
	フェイスブックの活用、広報誌の発行により外部への積極的な広報活動を行います。	広報誌「ふあいん通信」を3号発行し、家族や各関係機関へ利用者の活動等を紹介しました。また、フェイスブックを活用し、利用時の活動の様子等を紹介しました。
新規施設への移行に向け職員全員で共通の課題意識を持って準備にあたります。	緊急時や感染症など、その他業務運営全般におけるマニュアルの整備を行います。	新規施設に導入する機器の選定のため入浴機器メーカーの見学・視察を行い、研究を重ねました。
	年間計画に基づき外部研修への参加、また職場内研修を年2回実施し、職員の資質向上と意識・ケアの統一を図ります。	職場内研修を年2回実施しました。また、法人内の内部研修へも参加し職員の資質向上に努めました。
	外部の施設見学等にも積極的に参加し、移行に向けた業務運営のノウハウを構築するよう努めます。	常に光熱費や予算を意識・把握し、ムダの出ないように努めました。
	コスト意識を持ち、ムダの無い適正な物品の使用、管理に努めます。	
	現在の業務における課題を考え、施設移行が円滑に進むよう改善に努めます。	業務の内容を再確認し、見直しの作業を行いました。
利用者のニーズに沿い、楽しんで頂けるサービスを提供、支援します。	レクリエーション活動に職員全体で取り組み、施設内での楽しみを増やします。	プロジェクターによる映画観賞やカラオケ機器の活用、カードゲームなど皆で楽しめる室内レクリエーションを行いました。
	地域のイベントへの参加や、外出行事を行い、季節感や地域性を感じてもらえるよう支援します。	地域で開催されている祭りやイベント、花木の見学等、季節感を感じられる外出を行いました。また、買い物など利用者の個別の要望に沿った外出を行いました。
	地域のボランティア等の活用や、施設行事を増やし、楽しみの機会や交流の場を増やします。	地元のボランティア団体との交流を継続、また外部イベントへの外出等により利用者の社会交流が進むよう援助しました。
障がい者福祉の支援ネットワークを構築します。	秩父特別支援学校、各事業者など関係機関の会議やイベント等に参加し関係を深めます。	秩父障がい者雇用支援連絡会議、事業所説明会へ参加し、他事業者、特別支援学校職員との情報の共有に努めました。また、特別支援学校の実習の受入れも行いました。
	相談支援専門員との連携を図り、各利用者の支援に関する情報の共有とサービスの向上に努めます。	各利用者の相談支援専門員と連絡を取り、利用者情報の共有や課題の把握に努めました。
	障がい者福祉課との連携を維持し、安定したサービスの提供を行います。	秩父市障がい者福祉課と連携を図りながら、避難訓練の実施や、施設設備の確認、修繕を行いました。

障がい者相談支援センター ほのぼの 事業報告

事業の概要

事業計画	主な事業の内容	主な事業の実績
関係機関との連携を強化し、積極的に利用者の受入れを行います。	市町村、医療機関、教育機関、関係事業所へ積極的に訪問し、意見交換や状況確認を行うことで連携を強化します。	各関係機関との連絡を密にすることで、積極的な意見、情報交換等を行いました。
	関係機関からの相談に対して、迅速、柔軟な対応をすることで総支援者数90名以上を目指します。	相談支援専門員が3名となり、市町村からの相談依頼を積極的に受けたことで、障がい者63名、障がい児30名、総数93名の支援を行いました。
	相談実績を積むことでネットワークをさらに強化するとともに、各種ケースの相談に積極的に協力し、相談支援事業所としての機能を最大限発揮します。	様々なケースの相談を受けることによって、地域の関係機関とのネットワークを構築しました。
相談援助技術の質を高め、自立に向けた支援に努めます。	ライフステージに応じた切れ目のない支援と個人のストレンクスを活かしたサービス等利用計画の作成を行います。	児童から成人、障がいサービスから介護サービスへの移行についてなど、本人、家族、関係機関と連携し、本人のできること、強みを活かした生活が継続できるよう支援しました。
	本人の持てる力を最大限発揮し、生き活きと生活できるよう、意見を尊重し、自己決定ができる支援を行います。	持っている力に着目し、利用者の意見を尊重しながら、その力を積極的に活かせるよう援助しました。
	本人が望む生活を実現するために、サービス担当者全体が連携して支援できるよう、定期的に会議を開催します。	担当者会議を積極的に行うことにより、利用者、サービス事業所からの情報をスムーズに取り入れ支援に活かしました。
	モニタリングを重視し、状態の変化にすぐに対応できるよう支援します。	サービスの内容は適切であるか、目標の達成度、利用者自身の些細な変化を見逃さないよう心掛け支援しました。 本人、家族、サービス事業所からの聞き取りをこまめに行い、総合的にモニタリングを行いました。
	県、市町村、自立支援協議会等が開催する研修会、勉強会に積極的に参加し、専門性の向上に努めます。	高次機能障害についての知識を深め、計画作成などに役立てました。
障がい者へのサポートを強化し、地域でできる取り組みを考えます。	地域の社会資源の一つとして認知してもらおうとともに、その専門性を地域に貢献できるよう、定期的に障がいに関する相談会等を行います。	事業所にて複数の利用者、家族に対して説明を行う機会を作りました。
	新規施設の開設にむけ、関係機関、地域、利用者から情報収集を行い、必要とされるサービスについて実情を元にした提案を行います。	障がいサービスの利用ニーズを利用者、家族から聞き取ることにより、地域に不足しているサービスの実態把握を行いました。
	地域の課題について自立支援協議会等へ提言し、地域全体の障害福祉サービスの底上げを図ります。	関係機関からの調査などに協力するとともに、課題となっている点について事業所内で検討し、継続的に提案しました。
	地域等で障がいに関する研修会を実施し、障がいの理解を広めます。	市内各所で地域住民等に対して、障がいに関する研修会を行い、障がい者に対する理解を深めました。

放課後等デイサービス ゆくる 事業報告

事業の概要

事業計画	主な事業の内容	主な事業の実績
市町村、関係機関と連携を図り、質の高いサービスを提供します。	一人ひとりの成長に合わせた支援が提供できるよう、ご家族や特別支援学校をはじめとした関係機関との連携に努め、その人らしさに着目した支援を実施します。	ご家族や特別支援学校との連携を図り、児童一人一人のストレングスに着目した支援を実施しました。家庭、学校、放課後が一体的となり支援が行えるよう、サービス担当者会議への参加を通して児童の様子や変化などの情報共有を図り、切れ目のない支援の実施に努めました。 また、他の放課後等デイサービスや秩父第一小学校学童保育の児童との交流を図りました。 その他、行政機関、障がいサービス事業者、秩父地域自立支援協議会など、関係機関との連携を図りました。 安心した空間で過ごせるよう、秩父警察署生活安全課の指導のもと防犯研修を実施しました。
	開かれた事業所として信頼を得られるよう地域との結びつきを重視し、関係機関と情報の共有を図りながら障害者福祉の向上に努めます。	
	非常災害訓練、安全点検、防犯訓練を定期的実施し、安心して過ごせる場を提供します。	
障害に対する専門性を持ち、家族や利用者の立場に立った支援を提供します。	個々の利用者の希望を叶えるとともに、ご家族の願いを反映できるよう適切かつ効果的な支援を提供します。	ご家族からの聞き取りをもとに個別支援計画を立案し、成長を感じていただけるような支援を実施しました。また、日頃からご家族への言葉かけを意識して、信頼関係の構築に努めました。障がいの特性にも配慮し、個別のコミュニケーション技法や療育物品の相談など、家庭や特別支援学校と連動するよう支援を行いました。 事故防止については、ヒヤリハット事例の検討を適宜おこない、重大な事故に発展しないよう職員と情報の共有を図りました。 個人情報の保管については、鍵付き書庫での保管を徹底し情報の漏えい防止に努めました。
	多様なニーズにこたえられるよう障害特性についての研修を月に1回以上行い、職員の資質向上に努めます。	
	家族の要望や相談に対応するため、専門知識の向上に努めます。また、日頃の状況の報告、連絡、相談を大切に、ご家族との信頼関係を築きます。	
	ヒヤリハットの事例検討をおこない、事故防止に努めます。	
	個人情報の適切な取り扱いを実施し適切な管理をおこないます。	